



求められているもの

著者	林, 研光
雑誌名	教育を考える一言
巻	2
ページ	10-10
発行年	2012-06
URL	http://hdl.handle.net/2241/00123808

求められているもの

1. 教育を考える一言

「人間は教育によってつくられると言われるが、その教育の成否は教師にかかっていると言っても過言ではない。国民が求める学校教育を実現するためには、子どもたちや保護者はもとより、広く社会から尊敬され、信頼される質の高い教師を養成・確保することが不可欠である」

中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」（2005 年）

2. 背景

現職教員の私にとって非常に重い言葉です。それは、雇い主が私に求めていることに他ならないからです。教員にとって、何を与えていくのかという視点は多くあるのですが、自身に何が求められているのかという視点は希薄だと思います。そのような中、求められることが明示されている中教審答申等は教員にとって重要です。ですが、目を通した現職教員は、管理職を除けば非常に少ないと思います。私も県の委員会仕事や大学院入試を通して、初めてこれらの答申を精読しました。教師は「わからなかったら教科書に戻れ」とよく言います。自身の在り方を考えたときに、何が求められているのかという視点で、これらの答申に戻っていなかった不勉強を反省しました。

3. 考察

上記のような強いメッセージが出ている現状は、社会が教育に対するノスタルジックや遅滞する現状を許容できないことを示していると思います。理不尽な要求やマスコミの過剰報道などによって、過度に教師の信頼が大きく損なわれている部分ではありますが、社会として教育現場にはより優れた教員があるべきだという要望が強くなっているのだと考えます。同答申によれば、優れた教員の条件として3つの要素「教職に対する情熱」、「教育の専門家としての確かな力量」、「総合的な人間力」が挙げられています。確かに、職場において中核を担い生徒にも慕われている教員は、これらの要素を強くもっています。言われてみれば当たり前と感じますが、教職を10年も過ぎ、研修が少なくなってくると、「優れた教員とは」ということを指摘してくれる場は非常に少なくなり、理解しているはずのこれらの要素が欠けてきたように思います。これらのメッセージは今一度教員としての在り方を考える上で、自戒という意味で身に沁みました。

私は、教育に対する失望感が進むことで、教員の待遇が悪化することや、学校教育自体を軽んじる風潮が出てくることを危惧します。この不況下で社会のあらゆる面で合理化が進み、費用対効果が論じられています。自身の首を絞めることなく、効果が見えにくい教育を健全に進める意味でも何が求められているかという視点で教育を考え、中教審や新聞、あらゆる書籍を使い、社会からのメッセージをしっかりと受け取る姿勢をもつことが重要だと考えます。

引用・参考文献

中央教育審議会答「新しい時代の義務教育を創造する」2005 年 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601/005.htm (2012 年 6 月 8 日アクセス確認)